

I. 教育活動

【学部】

- ・食品学
- ・食品学実験Ⅱ
- ・食品衛生学実験
- ・食材学
- ・管理栄養士総合演習Ⅱ
- ・地域学概論 (オムニバス)
- ・食品学実験Ⅰ
- ・食品衛生学
- ・食品の栄養素と機能
- ・健康栄養学基礎 (オムニバス)
- ・卒業研究

【大学院・人間生活学研究科 (修士課程)】

- ・食品生化学特論 (食品科学論Ⅰ)
- ・食物科学論
- ・食品製造学特論 (食品科学論Ⅱ)
- ・食物科学実践演習

【大学院・健康生活科学研究科 (博士後期課程)】

- ・食品機能学

【非常勤】

- ・RKC 調理師学校
- ・高知県立農業大学校
- ・北見工業大学

II. 研究活動

【著書】

1. 食べ物と健康 食品の科学 (2018), 改訂第2版 (太田英明ら編), p146-151. 南江堂, 東京
2. 田中守、鈴木大進、竹井悠一郎、吉本好延、小林淳、渡邊浩幸, ハマアザミ (*Cirsium maritimum* Mkin) の抗アレルギー効果, 47, 398-405. 臨床科学, 東京.
3. 渡邊浩幸、遺伝子調節による体調管理, 第 836 号, 11 月号, 810, 青淵, 公益財団法人 渋沢栄一記念財団, 東京

【論文】

1. 渡邊浩幸、松尾菜穂、山根悠太、彼末富貴, 食用カンナの茹で加熱に及ぼす要因解析 (2018) 高知県立大学紀要

【学会発表】

1. 渡邊 浩幸、田中 守、竹井 悠一郎、谷本 佳史、川村 真美. マウスの脳内アクアポリン4 遺伝子発現に対するアルコール投与の影響とビタミン B 群同時投与による改善効果, 第 72 回日本栄養・食糧学会, 岡山 (2018. 5. 17)
2. 田中 守、竹井 悠一郎、谷本 佳史、川村 真美、渡邊 浩幸. カンナデンプンはマウスの腸管バリア機能を強化する. 第 72 回日本栄養・食糧学会, 岡山 (2018. 05. 17)
3. 山根悠太、松尾菜穂、渡邊浩幸、川村真美、彼末富貴、田中守、竹井悠一郎. 種々の系統由来食用カンナ根茎部の加熱後のテクスチャー解析, 第 5 回 日本栄養改善学会四国支部学術総会, 高知 (2018. 06. 30)

4. 隅田有公子、竹井悠一郎、渡邊浩幸. 経腸栄養剤と種増粘・ゲル化調整食品の組み合わせによる 半固形成の特性比較 第5回日本栄養改善学会四国支部学術総会 高知 (2018年6月30日)
5. 竹井悠一郎、田中照佳、渡邊浩幸、山之内大. 糖尿病時高血糖は、LXR の発現調節を介し、破骨細胞分化を抑制する 第72回日本栄養・食糧学会学術総会 岡山 (2018年5月11-13日)
6. 西尾由香、松田幸彦、渡邊浩幸. 精神科に入院中の高齢者における低体重と相関する要因, 第39回日本肥満学会(2018.10.07)
7. 渡邊浩幸、井治賢希、久保田喜子、川村真美、奥原康英. 発芽玄米糠に含まれるアシル化ステロール配糖体の脂質代謝に及ぼす影響, 第39回日本肥満学会(2018.10.07)

【報告書】

1. 渡邊浩幸, 平成30高知県産学官連携産業創出研究推進事業「食用カンナの多分野活用の研究

III. 委員会活動

1. 地域連携部会 (副部会長)
2. 地域課題研究部会 (委員)
3. 人間生活学研究科博士前期課程学位審査委員 (委員長)
4. 産官学研究プロジェクト長
5. 立志社中運営委員会
6. 学部運営委員 (学部)
7. 就職担当 (学部)

IV. 社会的活動

【社会貢献活動】

1. 社団法人日本栄養食糧学会参与
2. 社団法人日本脂質栄養学会評議員
3. 日本肥満学会会員
4. 日本未病システム学会会員
5. 日本食品保蔵科学学会会員
6. 土佐フードビジネスクリエーター(FBC)人材創出 講義担当
7. 高知県事業診査アドバイザー (委員長)
8. こうち産業振興基金等事業審査委員
9. 越知町まち・ひと・しごと創生推進会議 (委員)
10. 高知県食の安全・安心推進審議会委員
11. 高知県産学連携会議会員
12. 生産管理高度化情報共有会議会員
13. IoP プロジェクト研究推進部会 高付加価値化グループリーダー
14. 高知県産学官民連携センター コプラコーディネーター

【講演・講習会】

1. HACCP 管理者 HACCP 講座 (学内講習会)
2. 高齢者にお勧めしたい食材 (高知県立大学公開講座)
3. 土佐FBC人材創出事業 (食品機能学)

V. 研究助成

【学外】

1. 高知県：平成 30 高知県産学官連携産業創出研究推進事業「食用カンナの多分野活用の研究
2. 受託研究（高知県立大学）：牧野富太郎博士ゆかりの有用植物の活用に向けた農商工医連携基盤の構築と事業化モデル（牧野植物園）
3. 受託研究（高知県立大学）：イタドリ葉部含有ポリフェノールの機能性（株式会社アミノエース）
4. 内閣府：“I o P（Internet of Plants）”が導く「Next 次世代型施設園芸農業」への進化（地方大学・地域産業創生交付金）